

## J A十勝池田町花卉生産組合におじゃましました

今回は、雄大な大地と食のおいしさで知られる十勝から、J A十勝池田町花卉生産組合をご紹介します。

### 【J A十勝池田町花卉生産組合】

池田町では水稲からの転作作物の一つとして昭和61年から花き栽培が始まり、同時に研究会が発足しました。平成元年に旧池田農業協同組合と旧利別農業協同組合が合併したことを機にJ A十勝池田町花卉生産組合に改め、今年で22年目を迎えます。

現在、7戸の生産者が約2,000坪のほ場（ハウス、露地含む）でデルフィニウムやトルコギキョウ等を栽培しています。

組合では毎年4月、6月、8月に会員のハウスを巡回して研修会を開き、栽培技術の向上や出荷規格の統一に努めています。また、7月には道内の主要な産地を視察し、技術的な面や消費動向等について情報交換を行っています。

研修会の出席率はほぼ100%で、小規模な組織ながらその分メンバー同士のつながりが強いことも特徴の一つです。



研修会の様子

### 【古くからのデルフィニウム産地】

池田町は十勝平野の東部に位置し、平坦な土地が多く目立った山のない地形です。気候は夜温が低く、気温の日較差が大きという特徴があります。この夜温の低さが生育に適していることから、花き栽培の始まりからデルフィニウムを生産しています。現在は、エラータム系（八重系）のオーロラシリーズやトリトンシリーズが多く栽培されています。

もう一つの主力は、花色や花型が多様なトルコギキョウで、八重系が多く栽培されており、色は白、ピンクを中心に市場からの要望を考慮して品種を決定しています。

主な出荷先は大田市場で、各農家で選別箱詰めされた後、航空機で出荷しています。



左：デルフィニウム 上：トルコギキョウ

### 【地域の花き振興にも尽力】

今回お話を伺った組合長の石澤 裕さんは、奥さん、息子さんとともに畑作との複合経営を営まれています。経営の安定のため、所得が確保できる集約的な品目として昭和61年から花きを取り入れられたそうです。

花き栽培において最も気を配っている点についてお聞きすると、温度管理との答えが返ってきました。近年の温暖化の影響で、高温に弱いデルフィニウムに障害が発生することがあるそうです。品質を維持するため、ハウスに寒冷紗をかける、換気扇を用いるなどしてハウス内温度を低く保つよう努められています。

おじゃました5月中旬は、デルフィニウム、トルコギキョウの定植が終了したばかりという時期でしたが、石澤さんのハウスではこの他にも、花壇用の苗が多種類植えられていました。これらは、町内の学校や商工会等から依頼を受けて栽培しているそうで、地域での花き振興にも大変尽力されていることがうかがえました。

### 【新規栽培者募集中】

組合では、産地として今後とも発展していくため、新規栽培者を募集しています。

研修の実施やどの農家へ行っても気軽に話を聞ける開かれた雰囲気づくりに努めるなど、組合としてしっかり支援していくとおっしゃっていました。

### 【ありがとうございました】

雨による農作業の遅れを取り戻すため大変お忙しい中、取材を引き受けてくださった石澤さん、関係機関の皆さん、本当にありがとうございました。

花きは非常に手間のかかる作目ですが、その分美しく咲いたときは喜びもひとしおのこと。高品質な花きの産地として市場でも高く評価されているJA十勝池田町花卉生産組合のご発展を心から願っています。

(平成24年5月取材 十勝総合振興局農務課)